



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101 ~ 2・Email: jbts@jbts.ac.jp

2020 年 9 月 10 日

第 164 号

発行人 神 保 望
印刷所 山猫印刷所



【巻頭言】

隔ての壁ではなく、救いの象徴として

校 長 神 保 望

今号の内容

巻頭言	1
卒業生研修会	2
決算報告	2
オンライン授業を経験して	3
学事報告・個人消息	4

フィリピン北部ルソンの山間にある小さな町、サガダを訪問したことがある。そこには 100 年以上の歴史を持つプロテスタント教会があるが、創立当時のフィリピンは被植民地であった。そこで宗主国側の教会が立案した宣教方策は、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて最も標準的とされたものを採用している。例えばサガダの町にはキリスト教主義の学校や病院があるが、それらは宣教活動の一環として建てられている。つまり宗教・教育・保健と言う、生活する上で必要不可欠な設備はキリスト教事業として提供されたのである。各施設が地域住民に果たした貢献度は、極めて高いものであろう。しかしその一方で、サガダ伝来の宗教を捨ててキリスト教に改宗した人々の伝統と文化に対する理解と配慮は、依然として十分ではなかったようだ。

サガダの町にある教会の裏手には教会墓地があり、そこを通り抜けると「カルバリー丘」と名付けられた広場に出る。そして広場の中央にあるのが、5 メートルはあろうかと言うコンクリート製の十字架である。突如現れた巨大十字架に圧倒されながらも反対側に目を転ずると絶壁があり、エコー・バレー（声がこだまする谷）と呼ばれる荒々しい岩肌を露出した谷間があるが、その絶壁には幾つもの棺が吊り下げられ固定されていた。キリスト教伝来の遙か以前からサガダに伝わる風習の一つであり、「死者の魂が祖先の所へ行き易いように」との願いから石灰岩の岩場高所に棺を吊るしたのである。これはハンギング・コフィン（吊り棺）と呼ばれており、祖先崇拜や精霊信仰に基づく埋葬法の一つであろう。このように深い谷を隔てて対峙する教会墓地と先住民の墓地、そして双方の間の巨大十字架は、サガダにおけるプロテスタント宣教 100 年の歴史そのものを象徴しているかのように感じられた。

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十

字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。」（エフェソの信徒への手紙 2 章 14 ~ 17 節）

エフェソ教会における隔ての壁とは、一体何であったのか。それは異邦人とユダヤ人と言う、民族的相違による不寛容な共同体間に生じる敵意であったのかも知れない。しかし、パウロが手紙を通じて伝えたのは、そうした不寛容な共同体間の和解と一致であった。

サガダの町で見た教会墓地と先住民の墓地の間にそびえ立つ巨大十字架は、敵意を滅ぼす救いの象徴としての意味を持つのか、それとも敵意と言う隔ての壁そのものの象徴なのか。サガダの町に教会が建てられた時には既に植民地政策が徹底されていたことを勘案すると、カルバリー丘の巨大十字架は先住民にとって救いの象徴と言うよりも、むしろ異教徒双方の墓地間にそびえ立つ隔ての壁として感じられたのではないか。そして教会側からすれば、異教徒の風習の前に立ちはだかる巨大十字架は頼もしい壁であり、平穏な生活を保証する象徴であったのかも知れない。その証拠として、この先住民の墓地に行くには教会の正門をくぐらなければならないのであり、穿った見方をすれば異教徒の墓を管理しているのもキリスト教会なのである。

教会が宣べ伝えて来たのは、キリストによってもたらされた福音としての神との和解の証しであり、キリストの十字架は、この世の敵意を滅ぼす和解の御業、即ちキリストのみ成し得た神による救いの象徴である。そこで谷間を挟んで対峙するかに見えた教会墓地と先住民の墓地の間に立つ巨大十字架は、民族的相違をより際立たせるのではなく、厳然とある民族的敵意の谷間を埋め、両者を平和の福音を介して出会わせ一つの体とされる和解の象徴として表現されるべきであろう。何故ならキリストの十字架は、隔ての壁としてではなく、神の救いとしての福音を伝えるものだからである。

卒業生研修会報告



昨年度、日本聖書神学校同窓会常任役員に選任され、卒業生研修会担当になりました。2020年度の研修会は北九州を会場でおこなう計画をたてておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、やむなく神学校を会場に日帰り研修会をおこなうことになりました。しかしその一方で、Zoom会議によって、全国の方が同時参加できる新しい研修会の形にチャレンジすることになりました。

今まで宿泊して行われてきた研修会を、新型コロナウイルスの感染対策をおこないながら、一日で行うために次の工夫がされました。

- (1) 開会礼拝と、召天者記念礼拝をひとつにして短いものとする。

- (2) マスク使用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保、会場での換気。また、食事教室やカリスを開放し、各自で摂ることとする。

- (3) 複数のカメラを使用し、Zoom会議の方々にも会場の臨場感を味わってもらう。

これらにより、一日を有効に使うことができ、また、全国の参加者とも一体感を持つことができたのではないかと思います。ちなみに現地参加は25名、Zoom参加は17名、合計42名の参加がありました。

次に研修会の内容と成果に触れさせていただきます。

- (1) 礼拝では、2019年度に召された9名の先生に思いを馳せ、先達の大きな足跡を継承する者としての決意をあらたにすることができた。
- (2) 同窓会総会も、提案されることが全会一致で承認され、新たな方向性を確認することができた。
- (3) 主題講演「イスカリオテのユダ―別訳の意義―」では、菅原先生のお話に引き込まれた。特に、先生

67期 中野通彦

のご専門である「物語批評」からのマルコ福音書の見方が示唆に富んでいて、会場の感想からも、「理由のない召命」、「(弟子たちは)皆、失敗した(・・けれどもまた、初めに戻って召命を受ける)」というところに励まされたという感想が複数出されていた。聖書翻訳のことにとどまらない、福音的な講演であった。

- (4) 神学校アワーでは、コロナ禍でも工夫をしながら奮闘している学校の姿が紹介され、神学生のことをおぼえる機会となった。

- (5) 自己紹介は、Zoom参加の方と会場の方との有機的な交わりができた貴重な体験となった。

教授会で担当をしてくださった荒瀬先生、Zoom会議で入念な準備をしてくださった齋藤先生、教務の木村晋治さん、窓口をしてくださった総務の西川穂さん、その他援護してくださった小河会長はじめ役員会の先生、神保校長はじめ教授会の先生、神学校の職員、参加してくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。来年は是非、九州でお会いしましょう。

決算報告

当学校の同窓生および諸教会の皆様には日頃から日本聖書神学校のために祈りいただき、また学校運営のために多額の献金をお捧げ下さり感謝いたします。

皆様のお支えにより、2019年度も無事に学校運営をおこなうことができました。

また、2019年7月より聖經ビル(校舎賃貸料)に新たなテナントが入居し、前年取崩した預かり保証金を積み戻すことができました。

しかしながら、学校運営が収益事業の収入に頼らざるを得ない状況には変わりはなく、目白ビル・聖經ビルは2027年度には築60年を迎え、今後は老朽化にともなう修繕費等の増加が見込まれております。理事会ではこの問題に対して、建替えの可能性も含めた検討を開始しております。

この目白の地で牧師養成という重責を担う日本聖書神学校が存続していくためにも、皆様のより一層のご支援とお祈りをお願いいたします。

します。(文責 西谷謙総務部長)

学校会計貸借対照表

2020年3月末

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	56,702,989	短期借入金	18,660,000
未収入金	981,398	未払金	12,573,262
収益事業未収入金	79,604,541	前受金	165,000
商品	589,743	授業料前受金	984,000
立替金	75,072	入学金前受金	210,000
固定資産		施設設備資金前受金	40,000
有形固定資産		預り金	450,845
土地	140,831,000	仮受金	0
建物	461,207,429	固定負債	
建物付属設備	20,981,440	学校債	69,380,000
構築物	9,051,998	長期借入金	191,365,000
器具・備品	8,921,977	退職給付引当金	0
図書	128,289,841	長期未払金	119,556
特定資産			
学校債引当特定資産	70,604,026		
奨学金引当特定資産	27,220,228		
その他の固定資産		純資産の部	
電話加入権	32,000	基本金	1,071,471,137
収益事業元入金	162,062,840	翌年度繰越超過額	-198,262,278
資産の部合計	1,167,156,522	負債・純資産合計	1,167,156,522

学校会計資金収支計算書

2020年3月末

収入の部		支出の部	
学生等納付金収入	9,801,960	人件費支出	42,627,892
手数料収入	175,400	教育研究経費支出	4,949,727
寄付金収入	2,515,692	管理経費支出	17,806,754
後援会寄付金収入	17,128,000	借入金等利息支出	2,580,372
補助活動・収益事業収入	20,176,600	借入金等返済支出	33,660,000
受取利息・配当金収入	3,823	備品支出	661,692
雑収入	914,770	図書支出	1,465,362
前受金収入	521,000	資産運用支出	20,000,228
前期期末収益事業未収入金	99,177,687	前期期末収益事業未収入金支出	47,997,917
その他の収入	23,702,421	その他の支出	10,056,363
資金収入調整勘定	-1,206,743	資金支出調整勘定	-2,223,712
前年度繰越支払資金	63,374,974	次年度繰越支払資金	56,702,989
収入の部合計	236,285,584	支出の部合計	236,285,584

収益事業会計貸借対照表

2020年3月末

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金・預金	34,308,263	短期借入金	1,320,000
商品	1,295,231	未払金	587,005
未収入金	345,649	前受金	3,960,000
繰延税金資産	1,725,618	預り金	241,567
		リース債務(1年以内)	50,652
		未払消費税	4,699,300
固定資産		法人税等充当金	19,212,700
土地	58,990,000	学校会計未払金	79,604,541
建物	218,621,325	固定負債	
建物付属設備	14,131,661	長期借入金	3,400,000
構築物	7,262,781	長期借入金	3,400,000
器具および備品	70,817	預り保証金	209,800,000
リース資産	50,652	リース債務	0
電話加入権	40,000		
預かり保証金特定預金	58,800,000		
		純資産の部	
		収益事業元入金	162,062,840
		繰越利益剰余金	-89,296,608
資産の部合計	395,641,997	負債・資本の部合計	395,641,997

収益会計損益計算書

2020年3月末

収入の部		支出の部	
店舗賃借料収入	76,940,400	人件費	9,899,201
施設設備利用料収入	28,234,685	一般管理費	14,918,254
校舎賃借料収入	31,536,000	租税公課	19,315,600
出版物売上	255,507	減価償却費	13,169,028
受取利息等収入	504	学校会計寄付金	15,020,000
雑収入	401,650	支払利息	18,120
		特別損失	0
		法人税等	18,949,710
		当期純利益	46,078,833
収入の部合計	137,368,746	支出の部合計	137,368,746

オンライン授業を経験して

前期の授業は、新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため遠隔授業での開講となりました。神学教育に身体性を欠くという初めての試みでした。準備不足もあり、事務方の不手際もあり、講師の先生方には多大なご負担を強いることになりましたが、講師・学生皆様のご協力で、大きなトラブルもなくオンラインの講義の導入ができたことは感謝です。6 月からは通常の形式の教室での対面の開講を取り入れつつ前期のプログラムを終えることができました。今回の経験は神学校の歴史の中で初めてのことで、オンラインの開講が将来に向けて持つ可能性を知ると共にその限界も改めて知らされました。今後神学校の未来の姿にどのようにこうしたツールを取り入れてゆくのか考えてゆかねばならないでしょう。オンラインの受講を経験した学生たちからも、様々な感想が寄せられています。(文責：柳下明子)

オンライン授業に思う

3 年 杉野信一郎

今年の 2 月 25 日に学校から「新型コロナウイルス感染症の国内での発生状況を踏まえ、3 月 2 日の「卒業礼拝」は実施、卒業礼拝後の「祝会」は中止することにいたしました。」とのメールが届いた時点では、まさかこれほど長期にわたり学校に登校できない事態になるうとは想像もしていませんでした。しかし、そこから事態は急速に悪化し、卒業礼拝の中止、入学始業礼拝の中止、新学期の授業開始日の延期などが相次いで決まり、先の全く見通せない状況となってきました。そうした中で、特に 1 年生は入学したものの一度も登校できない状況が続く、不安も一層大きかったことと思います。

そうした中、3 月 31 日に同級生の一人から学校にオンライン授業の提案が出されました。すると校長から「学校でもすでに Zoom という遠隔会議のシステムを使った授業を検討している旨の回答があり、その後、4 月 20 日からオンラインでの授業と月曜礼拝を開始することが決まりました。新型コロナウイルスの感染拡大も前代未聞の状況でありましたが、そうした状況の

中で遠隔会議のシステムが普及し始めていたことは幸いでした。そして、どちらかというとそうした先進技術には縁遠く思われる神学校が迅速な対応をしてくださったことは多少の驚きであるとともに感謝でありました。講師の先生方の中には、インターネットを利用しての授業に抵抗感をお持ちの方も少なくないなかで、実施に向けて粘り強く交渉してくださった教務のお骨折りに本当に頭が下がる思いです。

Zoom による遠隔授業は、学校がホストとなり、講師と受講生がゲストとなって、パソコン又はスマホを使ってオンライン会議に参加するという形のもので、神学校の授業は受講者が少人数のため互いの様子がパソコンの画面で一覧しやすく、通常の対面授業に近い感覚でオンライン授業に臨むことが出来ました。また、講師の先生方も講義資料を事前に配信してくださり、予め資料に目を通してから授業に臨むことも出来ました。そして、私のような通学生の場合は、職場でそのまま受講することが出来て、通常、往復 3 時間半の通学時間を省くことが出来たこ

とも大きなメリットでした。

一方、Zoom によるオンライン礼拝については、参加人数が多く、賛美などは通信のタイムラグにより声を合わせづらいことなどもあって、双方向性の確保が難しく、授業ほどスムーズにはいかない面がありましたが、神学校に來校できない先生方が所属教会の礼拝堂からその教会の式次第によって遠隔で司式・説教されるなど、普段とは違った礼拝を体験できたことは恵みでした。

そして、神学生自身が神学校の遠隔授業を体験したことによる情報リテラシー向上の効果も少なくないと思われます。実際、私自身も神学校の経験を踏まえて実習教会の役員会で Zoom 会議を取り入れたり、礼拝の動画配信を始めたりすることに繋がっています。新型コロナウイルスの感染拡大によって神学校や教会は一堂に会することが制約されるなど多くのデメリットを被りましたが、こうした厳しい状況の中でこそ見出される恵みや希望に気づかれ、どんなときにも神様は働いて下さっているという思いを強くいたしました。

オンライン授業を受けて

2 年 加太 典子

オンライン授業を受けての感想を書いてほしいと言われましたので、以下に忌憚のない意見を書かせていただきます。

① 閉塞感

一番、嫌だったのは、オンライン授業時に感じる閉塞感です。窒息するような言い知れない不安感、叫びだしたい衝動にもしばしば駆られたことこの感覚は、以前にも感じたことがあります。それは、趣味のスキューバダイビングに興じていた時に、背負ってい

るタンクにコネク特させたチューブから、酸素が、適正に送られてこなかった時に感じた感覚です。吸い込むたびに、少ない酸素と海水が口に入ってしまった。水深 20 メートルの深さで、酸素が無くなり、このままでは溺死すると思った時と同じです。もちろん、その時は、別のダイバーが、気が付いて、自分のタンクについている予備のチューブを私の口に含ませてくれたので、溺れることも回避できました。この時の「溺れる」と言う感覚とオン

ライン授業を受ける度に感じる感覚が同じため、私は、オンライン授業は苦痛でしかありません。

② 孤独感

次に、嫌だったのは、オンライン授業時に周りには、誰もいないことです。先生も、同期生も、誰もいなくて、自分しかいません。心から孤独を感じました。先生のお一人が、オンライン授業だと、みなさんが、洞穴に入ってしまった、出てこないと言っていました。「洞穴から、出てきなさい。」と、授業

の度に言われていました。図星だと、内心想っていました。

③ 集中力の欠如

さらに、オンライン授業を受けて、90分間、集中力が保てないことがよくわかりました。オンラインの授業中に聞いた先生の講義内容が、曖昧な記憶でしか残っていないことに今更ながら、愕然としています。

④ 接続の不安定

スタート時の4月は、自分のオンラインへの知識が未熟なため、なかなか授業に参加することが容易でなかったことが本当に悲しかったです。同期生には、ずいぶん、助けてもらいました。さらに、パソコンの接続が不安定の場合は、授業が進んでいくのに、自分には音声がかく聞こえない場合もあり、さらに、ある時には、パソコンで繋ぐより、スマートフォンで繋いだ方が簡単

とも言われて、チャレンジしましたが、容量オーバーだったようで、接続できませんでした。

以上が、オンライン授業に対する感想です。メリットは、せいぜい、神学校に通わなくていいくらい、つまり、通学にかかる時間が軽減されるくらいしか思いつきません。しかしながら、あくまでも、これは、私個人の感想であることを明記させていただきます。

Diary 学事報告

2020年4月～8月

- 4月1日 新入生12名(正科生4名、聴講生7名)入学
- 4月1日 学報(第164号)発行
- 4月6日 教授会(第1回)
- 4月13日 図書館運用委員会
- 4月16日 理事会(第257回)
- 4月20日 始業礼拝(説教「墓の石は取り除けられた」神保 望校長)、前期授業開始(オンライン)

- 4月23日 学生自治会総会
- 5月9日 創立記念日
- 5月11日 教授会(第2回)
- 5月29日 同窓会役員会
- 6月12日 学生自治会ホームルーム
- 6月17日 対面授業開始
- 6月19日 理事会(第258回)
- 6月29日 評議員会(第215回)
- 7月10日 理事会(第259回)
- 7月20～21日 前期補講日
- 7月20、27、29日 精神医学特講

- 7月22日 心理テスト
- 7月23日 同窓会役員会
- 7月24日 献身志願者の集い反省会
- 7月27～28日 前期試験日
- 7月27日 教授会(第4回)
- 7月31日 卒業論文中間発表会
- 8月1日 理事会(第260回)
- 8月21日 同窓会役員会
- 8月25日 卒業生研修会(講演「イスカリオテのユダ別訳の意義」菅原裕治教授)、同窓会総会

個人消息

■ 神保 望 校長

- 4月5日 武蔵野教会を訪問(年数回)
- 6月9日 東京教区・常置委員会に出席(年数回)
- 7月12日 代々木教会で礼拝説教
- 7月20日 日本聖書神学校紀要『聖書と神学 第31号』に寄稿
- 7月26日 代々木教会佐野真也牧師就任式に出席(祝辞)
- 8月18日 東金教会を訪問
- 8月25日 『日本キリスト教歴史人名事典』担当箇所執筆出版
- 寮監としての業務を行い、また校長として理事会、評議員会、教授会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会に出席
- その他適宜面接・人事相談・学生面接を担当して教務執行

■ 荒瀬牧彦 教授

- 7月13-15日 アメリカ・カナダ賛美歌学会2020年大会(デジタル)に出席
- 8月2日 四谷新生教会礼拝説教
- 8月20日 東北教区礼拝と音楽研修会(オンライン)レクチャー「礼拝は中心—礼拝のリタジーと教会の神学」
- 8月26-28日 活水女子大学教会オルガニストコース礼拝学オンライン集中講義
- 8月31日 礼拝研究会オンライン例会
- カンバーランド長老あさひ教会で協力牧師として月2回説教
- NPO法人フレンドシップあさひでカウンセラー
- 執筆 共著：吉岡光人編『信仰生活ガイド 十戒』(前文)、雑誌：『説教黙想

アレタイア』109号(使徒信条「天に昇り」)、『礼拝と音楽』185号(「聖書翻訳と賛美歌のことば」)

- その他、カンバーランド長老教会日本中会教職委員会委員長、同礼拝・礼拝音楽小委員会委員長、『礼拝と音楽』編集委員、日本賛美歌学会運営委員、日本聖書神学校理事・評議員、社会福祉法人ナオミの会評議員、上北台こひつじ保育園礼拝担当などの働き

■ 稲垣 千世 教授

- 6月30日 甲府中央教会牧師辞任
- 7月1日 ひばりが丘教会牧師就任
- 8月25日 卒業生研修会参加
- その他ひばりが丘教会牧師としての執務執行。JBTS図書館長としての執務執行

■ 菅原 裕治 教授

- 日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2020年度春期秋期試験を監修)
- 聖パトリック教会牧師・八王子復活教会管理牧師としての執務執行
- 神学校において評議員の働きを担う

■ 古谷 正仁 教授

- 5月30日 学校法人横浜英和学院評議員会
- 8月15日 社会福祉法人日本水上学園理事会
- その他：日本キリスト教教育学会『学

会創立30周年記念 キリスト教教育研究』に「現代におけるキリスト教教育の中心課題—教会教育を中心に—」を執筆。

- 日本基督教団蒔田教会牧師としての教務執行。日本基督教団神奈川教区総会副議長としての教務執行。日本聖書神学校人事委員としての業務執行。日本聖書神学校キリスト教研究所委員としての業務執行。社会福祉法人日本水上学園理事としての業務執行。学校法人横浜英和学院評議員としての業務執行。学校法人元住吉こぼと幼稚園理事としての業務執行。日本キリスト教教育学会文書委員としての業務執行。

■ 柳下 明子 教授/教務部長代行

- 4月1日より6月30日までひばりが丘教会代務としての執務執行
- 著作・執筆『信徒の友』6月号「歴史に働く聖霊とは」、『教団新報』4928・29号「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う『緊急事態宣言』の渦中で」、『洗礼を受けるまで』(日本キリスト教団出版局)共著、『信仰の手引き—使徒信条』共著、『聖書と神学』31号「パンデミックにおける日本のプロテスタント教会の対応」
- 神学校において評議員、理事、図書館運用委員の働きを担う

2021年度神学生募集・秋期入学試験

受験資格：①大学卒業またはそれと同等の学力を有すると本校において認められた者 ②受洗後2ヶ年以上の忠実な教会員であり、伝道の召命を受け、所属教会牧師と役員会の推薦する者であること。

出願期間：2020年10月1日(木)～10月23日(金)

試験日：2020年11月6日(金) ■ 願書のご請求は本校総務部まで